

営農情報 第5号

令和4年 7月 7日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 コシヒカリの生育状況

平年に比べ草丈、m²あたり茎数は並、葉色はやや淡く、葉令の展開は0.1葉遅くなっています。現在の生育の進みから、幼穂形成期は7月9日頃(5月13日田植えの場合)と予想されます。

表1 コシヒカリの生育状況(7月4日調査)

	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂形成期	出穂期
		(本/株)	(本/m ²)				
令和4年	67.5	22.7	495	11.5	3.9	(7月9日) ^{※2}	(7月31日) ^{※2}
令和3年	61.9	23.3	495	11.3	4.1	7月12日	8月1日
平年 ^{※1}	64.4	23.6	484	11.6	4.1	7月10日	8月1日

※1 アルプス米標準田 H24~R3の平均値 ※2 カッコ内は推定値

2 コシヒカリの穂肥の目安(5月13日田植の場合)

参照ページ:p71

【YouTube】
11 穂肥散布の
ポイントと注意点

【YouTube】
12 品種別の穂
肥施用時期と施
肥量



(1) 基肥一発肥料の場合

基肥一発肥料を施肥した圃場でも、葉色が淡い場合は稲体の活力を維持するため、追加穂肥を施用しましょう。

●追加穂肥の目安

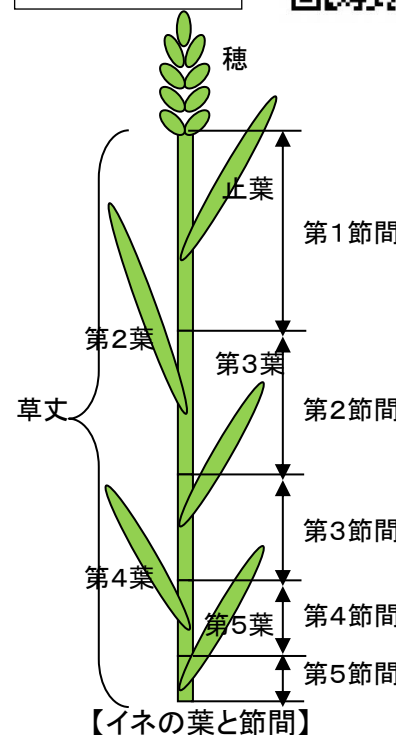
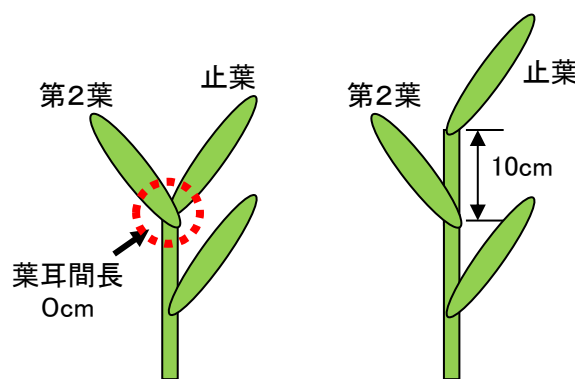
指標 出穂7日前(7月24日頃)の葉色が淡い
(葉色4.0未満)

施用時期 出穂3日前(7月28日頃)まで

肥料 追肥3号

施用量 5~7kg/10a(砂壤土7~10kg/10a)

出穂10日前 (葉耳間長±0cm) 出穂5日前 (葉耳間長10cm程度)



★目標とする節間の長さ

第4節間: 9.0cm 以内
第5節間: 3.5cm 以内

※1回目の穂肥施用時の
第4+5節間が15cm以上
⇒倒伏の危険大!

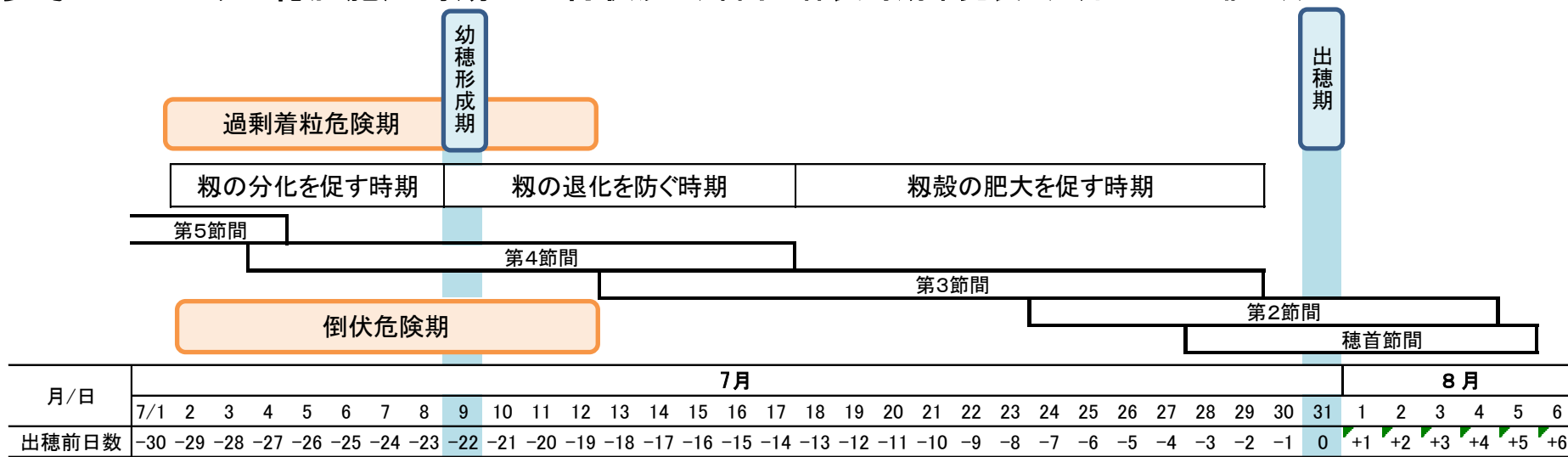
(2) 分施肥系の場合

★生育量別穂肥の目安(肥料:追肥3号)

田植日や圃場条件によって施用時期が異なります。
必ず葉色、幼穂長を確認してから施用しましょう。

生育量	1回目穂肥(幼穂長1.5cm)				2回目穂肥		
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)
理想	82cm以下	3.6	葉がピンと立つ	7/17頃	10kg	1回目穂肥の7日後	10~13kg (砂壤土13kg)
やや過剰	82~87cm	3.8程度	葉がやや垂れ気味	7/19頃	7kg以内		10kg
過剰	87cm以上	4.0以上	葉がメラメラ	施用しない		出穂7日前(7/24頃)	7~10kg

●参考:コシヒカリの穂肥施用時期の生育状況(節間の伸長時期早見表(5月13日田植え))



コシヒカリの理想の姿	＜幼穂形成期の姿＞		＜分施肥系1回目穂肥時期＞		＜分施肥系2回目穂肥時期＞		＜出穂期の姿＞	
	草丈 cm	葉色	草丈 cm	葉色	草丈 cm	葉色	草丈 cm	葉色
茎数	72cm	3.8	82cm	3.6	104cm	4.3	104cm	4.5
本/m ²	470本		430本		400本		400本	
本/株(60株植)	26本		24本		22本		22本	
本/株(70株植)	22本		20本		19本		19本	
幼穂長	2mm		1.5cm		15cm		18.5cm	
節間								
第4	2cm		9cm		9cm		9cm	
第5	3.5cm		3.5cm		3.5cm		3.5cm	

穂揃期に
4.2~4.5
(砂壤土4.5)
になるように

3 今後の水管理 参照ページ:p70、75

【YouTube】
10 中干し後の
水管理



【YouTube】
15 登熟期間
水管理



今年の夏も暑くなると予想されています。生育ステージに応じた適切な水管理を徹底しましょう。

【水管理のイメージ】

生育期	幼穂形成期	出穂期	出穂20日後	収穫5~7日前
水管理	飽水管理		湛水管理	間断かん水
水量	[Water level graph showing high water]		[Water level graph showing low water]	[Water level graph showing low water]

出穂までは『飽水管理』
足跡の水がなくなる前に入水し、常に圃場が湿っている状態を保ちましょう。

足跡の水を切らさないように

出穂後20日間は『湛水管理』
湛水管理により収穫期近くまで葉色が高く、稲の活力が維持され登熟が向上します。

田面が出ないようにね

収穫前まで『間断かん水』
出穂20日後から収穫の5~7日前までは間断かん水で稲体の活力を維持しましょう。

こまめな水分補給で最後までがんばるよ!

【飽水管理】 入水後→自然落水→入水 (出穂始め頃まで繰り返す)



「田面の高い部分が隠れる程度まで入水」 「この状態になったら入水」 「この状態は乾きすぎ」

※幼穂形成期から出穂期にかけては、稲の茎葉からの蒸散が多くなる時期で、水分を多く必要とします。
※肥効調節型肥料(基肥一発肥料)の穂肥成分が溶出してくる時期でもあり、圃場が乾き過ぎると極端に葉色が低下するとともに肥料の吸収不良の恐れがあります。

○下流域まで十分に水が行き渡るようかけ流しを止め、地域での計画的な用水の利用に努めましょう。

○フェーンが予想されたら、水不足にならないようあらかじめ入水しましょう!!

【YouTube】
14 本田基本
防除



4 コシヒカリの病害虫防除 参照ページ:p72~74

- 今年もカメムシ類が管内全域で多く発生しています。
- 防除は遅れず、適期に確実に実施しましょう。
- 圃場への侵入を防ぐため、薬剤は畦畔にもかかるように散布しましょう。
- 防除間隔は7日を基本とし、10日以上空けないでください。

調査地点数	41ヶ所
確認地点率	82.9%(90.7%)
捕獲頭数	平均 10.1 頭(5.7 頭)

()内は R3年の数値



カメムシによる斑点米の被害



防除時期	紋枯病の常発地	紋枯病、カメムシの常発地	穂揃期	傾穂期
	7月21日(出穂10日前頃)	7月27~29日(出穂始め)	8月3~5日頃	8月10~12日頃
粉剤	バリダシン粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	バリダジョーカー粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで) 散布量: 150ℓ/10a	バリダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍(収穫14日前まで) 散布量: 150ℓ/10a	ラブサイドフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍(収穫14日前まで) 散布量: 150ℓ/10a	スタークル液剤10 1,000倍 (収穫7日前まで) 散布量: 150ℓ/10a
対象病害虫	紋枯病	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病等	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

農作業中の熱中症・事故に注意! 高温時の作業を避け、こまめな休憩・水分補給を!

《 次回の営農情報の発行予定は、7月20日頃です。》